です。

インターネット、ｉモード、グローバルだ、ボーダレスだと世界が一つのマーケット経済圏に組み込まれていく激しい変遷の中で、これに順化できない『知命』と『還暦』たちは、ただ化石人となるを待つだけ。せめて“世の為”“人の為”と“地球の為”を指向しながら、第二第三の人生をと思っていた矢先のことでした。

ところで、景気・不景気だけで計り切れないこの10年間は予想もつかない社会変革をもたらし、新たな文化・秩序・慣習を出現させてしまいました。

自然を鳥瞰して経済社会と人の営みを再構築せよとの警鐘が喧しい時勢の真っ只中、小生も現居から車で５分の国上山麓に寓居を構えました。蒐集続けて二十数年、建築廃材や建具・家財・食器の処分品等を蘇らせながら築百数十年になる廃民家の再造成と改修を職人・業者に任せず自営を楽しんでいます。蓄財も資金も持たずして寓居の隠遁生活が享受出来るすばらしい社会が訪れたと感じ入っています。

心のありようによって、見方によって、全ての事象と物はまったく別の概念と価値を持つものとして捉えることが出来ます。

石油ストーブが一度の掃除もされないまま、着火不良で新品同様の粗大ゴミ。照明器具が色あせただけで捨てられる。ヒビ割れの一つもない陶磁器がひと揃いで廃棄処分。希少価値もなく、美術的芸術的価値もない、たとえ朝市で手に入れた安物湯呑み一つであっても、それはかけがえのない爺さん婆さんがこよなく愛して使っていたものに違いない。

かつての日本は形見分けと称して親族が引き継ぎ、末永く利用する慣わしがあった筈。英国、フランス等ではむしろ古さを競い合ったり、一つのものをどれほど永く使えるかが文化の基調ではあるまいか。ヴィトンであれグッチであれ傷んだ箇所を修復し、部品交換を半永久的に行うメンテナンスが行き届いているのを私達は知っている。欧州では社会体制に関わらず時代を超えてあまり変化を好まない生産活動と消費生活の営みを続けている。伝統を重んじている。

日本では資源の乱開発と大量捕獲、マスプロ、マスセールス、大量消費、大量廃棄の半世紀を反省しながらも21世紀の新しい社会と秩序を模索したまま、陣痛を重ねている。いまもって経済成長の指標が景気・不景気で、そして対前年度売り上げ等だけで経済誌を、そしてコマーシャルは企業イメージの宣伝よりも、売りものの新商品がテレビを賑わしている。

大げさな話はともかく日本中が“新しい”、“早い方がいい”、“大きい方がいい”、“手間いらずがいい”、“便利な方がいい”、“多機能がいい”、“ランニングコストがかからない”、“快適だ”、“楽しい”という商品と情報がオーバーフローしている。私達も次世代もこの怒濤の波にもまれて次々と追いかけられるように買わされているふしがある。

すべからく、人の願い（換言すると欲望と理想の極み）に向かって実現化したものやサービスが、市場を席巻するのがマーケット経済であり大富豪となれるのも判りきっていることだが、こんな経済

社会の中でもみくちゃにされているのが日本の現実だ。

新しいものを手に入れた充足感。人より高価なものを持った喜び、ものの充足感を追い続けている間に、日本の“ひと”は何を忘れたのだろうか。

古来、物や道具は人の汗と涙の結晶と言われたこともある。物には命が吹き込まれているとも言われたし、ご飯粒一つ残すと仏様に叱られると教わったことも思い出す。

日本の技術革新は生産技術面でも世界に冠たる地位をもたらしたが故に大量高速生産を可能にした。短時間で大量に造り出せるといっても、その生産機械は技術者や熟練者達の深夜に及ぶ汗と涙の結晶である。メーカーは汗の結晶の機械を使って完成させた商品に命を吹き込み、その有用性を最後まで全うして貰うことを願い、誇りを持って世に送り出した筈だ。

まだ充分な機能を果たせるのに陳腐化しただけの理由で廃棄するのは、年寄りの面倒も見ずに姥捨て山に放り出すに等しい。掃除や手入れもせずに壊して捨ててしまうは、ペットに餌を与えないで殺してしまうに等しい。

“古いものにも命が宿る”当たり前の心を取り戻していきたいと念じている。

未来を語るは青年、現在を語るは壮年、過去を語るは老年。我々の年齢になると諺・格言に感じいってしまうものだが、時代を超えた真実であり、真理でもあるだろう。古いものを蘇らせると古き時代の人の心も蘇ってくるのがこれまた不思議である。衣食足りて礼節を失い、快適・快楽・充足・利便性を手中にした日本の“ひと”は何処へ向かって進んでいるのであろうか。悠久の自然と較べ、日本の“ひと”は進化が早すぎる。この半世紀が格別に早すぎる。草木虫魚と畦蛇鳥獣は、何万年も同じ歩みで世代交代を続ける。日本の“ひと”は同じ営みを次世代に繋げなくしてしまった。

国家百年の計も羅針盤も持たない日本丸の進路に、「快適と利便性」を極める先は「怠惰と堕落と滅亡」が待ち受けているようで気懸かりだ。

資源大国の米国型大量消費市場経済から離れて、資源少国らしい日本独特のマーケット経済を国の根幹に据えて欲しいものだ。

山荘は週末の憩いの場・・・。村落はかつて“良寛”が巡歴した道・・・。自生の山野草・花弁一輪にいとおしさをもって、国を憂い、世を嘆きながら明日の陽差しと、日本の古き良き価値の再構築を啓蒙したい。

廃品に　　命吹き込む　　手造りの

山荘の主　　夢は膨らむ

山荘は宿泊と露天入浴も出来ます。御夫婦、友人連れでの御来村をお待ち致しております。事前に御一報下さい。ビジネスではありません。念のため

会　員　の　声：　木宮　隆

三条市でも今年10月から「ごみ」の有料化が始まった。前日には市内各所に設置されたごみステーションに駆け込み投棄されたごみの山ができたという。消費税導入時にもこれと似た駆け込み需要があったように記憶している。